

国際バカロレア導入指針（暫定版）

～未来を切り拓き、強みを生かし自分らしく豊かに生きぬくこどもの育成～

令和7年1月
南相馬市教育委員会

地球温暖化、気候変動、災害の多発、戦争、テロ、感染症のまん延、グローバル化、インターネットの普及、テクノロジーの進歩、少子高齢化、物価高騰、労働人口の減少、所得格差の拡大、非正規雇用の増加……

現代の日本そして世界は、たくさんの問題や課題を抱え、それは常に変化し続けています

そんな時代を、子どもたちはどうやって生きていけばいいのでしょうか？

そんな時代を、子どもたちはどうすれば生きぬいていけるのでしょうか？

答えは…「わかりません」

なぜなら、この答えは誰かに与えられるものではなく、子どもたち一人一人が自分で考え、「夢」や「目標」という形で生み出すものだからです

しかし、社会がどのように変わっても、子どもたちが将来どのような道に進んでも、必要となる力があります

私たちは、日々この問いに向き合い、

すべての子どもたちが、未来を切り拓き、強みを生かし自分らしく豊かに生きぬく

そのための力を国際バカロレアの取組を通じて育んでまいります

1 本指針の取扱い

本指針は、令和5年11月に設置し、調査研究を行ってきた「国際バカロレア研究会」の研究結果（1次とりまとめ）を踏まえて策定するもので、市内導入に向けての方針を示すものです。

ただし、本指針の策定段階（令和7年1月）において、中学校等への導入に向けた取組については、調査研究を引続き行うため、現段階では小学校での導入に向けた「暫定版」として整理し、今後の研究結果を踏まえて「最終版」として策定することとします。

なお、幼稚園・保育園については、本指針の考え方を踏まえながら、こども未来部において今後の対応を検討します。

国際バカロレア研究会 研究結果（1次とりまとめ）「導入可能性について」

○IB教育は本市児童生徒が、グローバル化が進展する社会の中で未来社会を切り開くために必要な資質・能力の育成に高い効果が期待できること、公立学校での導入も可能と判断できることから、市内導入に向けて取組むこととする。

○市内導入に向けて取組むため、導入の目的や期待される効果、要件など導入に係る指針を定めることとする。

○市内導入に当たっては、想定される課題に対応しながら、まず、小学校においてPYPの導入に向けて取組むこととする。

○市内幼稚園・保育園での導入は、小学校への接続を踏まえた対応を考慮する必要があることから、引き続き導入可能性について研究を進めることとする。

○MYP、DPについては、中高一貫教育により導入するケース、小中一貫教育によりPYPからMYPに接続するケース、それぞれ単独で導入するケースがある。さらにカリキュラム等の教育活動についても外国語教育を強化して取組むケースがあるなど様々なパターンがあることから、効果的な導入の在り方について県との協議を含め、引き続き研究を進めることとする。

※国際バカロレアの概要（PYP・MYP・DP等）は後述します。

2 国際バカロレアの導入理由

現在の日本及び世界は、グローバル化の進展やAIなどの絶え間ない技術革新、少子高齢化など様々な課題を抱えています。さらに、それらは常に変化し続けており、**子どもたちが歩む将来の社会の姿の予測は困難**な状況です。

このような状況の中、子どもたちには**語学力・コミュニケーション力、主体性、チャレンジ精神などグローバル人材が持つ資質・能力が必要**とされ、学校教育には**様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して答えのない問いに向き合い解決していくといった取組**が求められています。

また、南相馬市は2011年3月に発生した東日本大震災により大きな被害を受け、震災からの復興・再生を図るため様々な角度から取組を進めています。しかし、年少人口、生産年齢人口が大幅に減少しており、**ふるさとに誇りと愛着の心（郷土を支える意識）を持ち、本市の未来を支える子どもたちの育成を図る**ことが必要です。

【子どもたちが歩む社会】

少子高齢化

グローバル化の進展

絶え間ない技術革新

社会構造の変化

雇用環境の変化

etc…

【子どもたちに必要な力】

- ①語学力・コミュニケーション能力
- ②主体性・積極性、チャレンジ精神、協調性・柔軟性、責任感・使命感
- ③異文化に対する理解と日本人としてのアイデンティティー
(グローバル人材が持つ資質・能力 (文部科学省資料より))

【学校教育に求められること】

- ①様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくこと
- ②様々な情報を見極め知識の概念的な理解を実現し情報を再構成するなどして新たな価値につなげていくこと
- ③複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようにすること
(学習指導要領 総則 改訂の経緯及び基本方針より)



ふるさとに対する誇りと愛着の心（郷土を支える意識）

2 国際バカロレアの導入理由

市教育委員会では、第三次教育振興基本計画において、目指すこどもの姿を掲げ、学習指導要領に基づく教育活動を踏まえながら4つの基本施策に係る各種事業に取り組んでいます。しかしながら、**生き生きと主体的に学ぶ態度やチャレンジ精神**、**答えのない問いに立ち向かうための深い知識と思考力・判断力・表現力**、**夢や希望を持ち自らの将来を自ら選択する力**、**世界に目を向け多様な文化や価値観を理解する心**、**ふるさとに対する誇りと愛着の心**など、**グローバル化で予測困難な社会を生きぬくために必要な素養・能力の育成**、**将来の南相馬市を支える意識を醸成するための指導方法に課題**を抱えています。

(1) 第三次教育振興基本計画に基づく取組

① 目指すこどもの姿

未来を切り拓き、強みを生かし自分らしく豊かに生きぬくこども

(障がい、文化的・言語的背景、特異な才能などの多様性を認め合い、ともに成長し、変化の激しい時代を乗り越え、力強く生きぬくために必要な資質・能力を育む)

② 基本施策

目指すこどもの姿を実現するため以下の各種取組を推進

① 豊かな心と体の育成

- ・郷土を愛し豊かな心を育む教育「至誠（まごころ）学」の推進
- ・様々な側面から生命の尊さについての考えを深め道徳教育を推進
- ・運動の習慣化や正しい食生活を身に付け、健康な体を育む教育を推進

② 教育水準の向上

- ・基礎学力の定着と活用力の向上
- ・学習意欲を高める魅力ある教育環境づくり
- ・こどもの読書活動と調べ学習を推進
- ・進学を推進するための支援

③ 教育環境の整備

- ・地域と連携した登下校時の安全確保や安全な通学手段の確保と、安全教育の推進
- ・学校施設の安全で快適な環境整備・改善
- ・学校・地域・保護者が一体となった学校づくりの推進
- ・安全・安心な学校給食の安定的な提供体制の整備

④ 児童生徒の状況に応じた支援の充実

- ・不登校・いじめ未然防止の積極的対応
- ・震災と原発事故の影響による家庭環境等の問題を抱える児童生徒への心のケア等の積極的対応
- ・一人ひとりの状況に応じた就学・学習支援

指導方法に課題

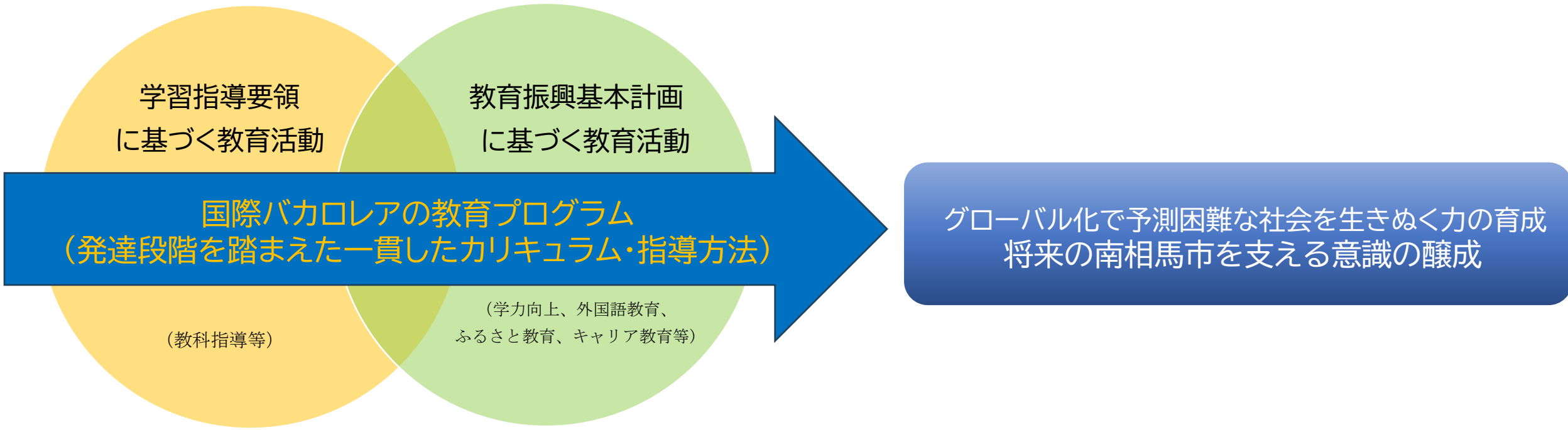
(生き生きと主体的に学ぶ態度 チャレンジ精神 深い知識 思考力・判断力・表現力 多様な文化や価値観を理解する心 ふるさとに対する誇りと愛着の心等)

2 国際バカロレアの導入理由

国際バカロレアは、**特色的で発達段階に応じた一貫したカリキュラム、双方向・協働型の探究型学習（授業）**を通じて、主体的に学ぶ力やチャレンジ精神、深い知識、コミュニケーション力、思いやりの心などグローバル化に対応した素養・能力を育成する国際基準の教育プログラムです。**指導方法が明確に示されているため、学習指導要領の内容を網羅しながら、子どもたちに必要な力を効果的に身に付けさせることができる**とともに、**教員の指導力向上**も図られます。

また、ふるさと教育（至誠（まごころ）学等）をカリキュラムに組込むことで、南相馬市の歴史や自然、文化、産業、地域で活躍する方々など**南相馬市の良さを深く知り、地域の中で自分がどうすればよいか考え、行動する力を身に付ける**ことができます。

市教育委員会では、**カリキュラム及び指導方法の改善を図り、グローバル化で予測困難な社会を生きぬく力の育成、将来の南相馬市を支える意識を醸成**するため、国際バカロレアの導入を目指します。



3 国際バカロレアの概要

(1) 国際バカロレアとは

国際バカロレアは、スイス・ジュネーブに本部を置く**国際バカロレア機構が提供する国際基準の教育プログラム**です。全人教育を特徴とし、課題論文・批判的思考探究等の特色的なカリキュラム、双方向・協働型授業により、グローバル化に対応した素養・能力を育成します。

(2) 理念

国際バカロレアの理念は、一貫した国際教育の観点から、「国際バカロレアの使命」や「国際バカロレアの学習者像」として示されています。「国際バカロレアの学習者像」は、全プログラムにおける共通のテーマとして10の人物像が示されており、これは、「国際バカロレアの使命」を具体化し、国際的な視野を持つとはどういうことかを表しています。

【国際バカロレアの使命】

多様な文化の理解と尊重の精神を通じて、より良い、より平和な世界を築くことに貢献する、探究心、知識、思いやりに富んだ若者の育成

【国際バカロレア 10の学習者像】

探究する人
~Inquirers~

私たちは、好奇心を育み、探究し研究するスキルを身につけます。ひとりで学んだり、他の人々と共に学んだりします。熱意をもって学び、学ぶ喜びを生涯を通じてもち続けます。

知識のある人
~Knowledgeable~

私たちは、概念的な理解を深めて活用し、幅広い分野の知識を探究します。地域社会やグローバル社会における重要な課題や考えに取り組みます。

考える人
~Thinkers~

私たちは、複雑な問題を分析し、責任ある行動をとるために、批判的かつ創造的に考えるスキルを活用します。率先して理性的で倫理的な判断を下します。

コミュニケーションができる人
~Communicators~

私たちは、複数の言語やさまざまな方法を用いて、自信をもって創造的に自分自身を表現します。他の人々や他の集団のものの見方に注意深く耳を傾け、効果的に協力し合います。

信念を持つ人
~Principled~

私たちは、誠実かつ正直に、公正な考えと強い正義感をもって行動します。そして、あらゆる人々がもつ尊厳と権利を尊重して行動します。私たちは、自分自身の行動とそれに伴う結果に責任をもちます。

心を開く人
~Open-Minded~

私たちは、自己の文化と個人的な経験の真価を正しく受け止めると同時に、他の人々の価値観や伝統の真価もまた正しく受け止めます。多様な視点を求め、価値を見だし、その経験を糧に成長しようと努めます。

思いやりのある人
~Caring~

私たちは、思いやりと共感、そして尊重の精神を示します。人の役に立ち、他の人々の生活や私たちを取り巻く世界を良くするために行動します。

挑戦する人
~Risk-Takers~

私たちは、不確実な事態に対し、熟慮と決断力をもって向き合います。ひとりで、または協力して新しい考えや方法を探究します。挑戦と変化に機知に富んだ方法で快活に取り組みます。

バランスのとれた人
~Balanced~

私たちは、自分自身や他の人々の幸福にとって、私たちの生を構成する知性、身体、心のバランスをとることが大切だと理解しています。また、私たちが他の人々や、私たちが住むこの世界と相互に依存していることを認識しています。

振り返りができる人
~Reflective~

私たちは、世界について、そして自分の考えや経験について、深く考察します。自分自身の学びと成長を促すため、自分の長所と短所を理解するよう努めます。

3 国際バカロレアの概要

(3) 国際バカロレア教育の特徴

これまでの学校教育は、「教師主導」で各教科の内容を網羅的に「覚える」指導でした。現在の学習指導要領では、「知識・技能」の習得に加え、「思考力・判断力・表現力等」「主体的に学習に取り組む学習意欲」を育む指導が求められています。

国際バカロレアでは、「**知識は受動的に学習されるものではなく、能動的に築くもの**」。つまり、知識をただ覚えるのではなく、自ら持つ知識や経験、世界との相互作用を通じて知識を構築するという構成主義的考えの下、**双方向・協働型の探究型学習のカリキュラムを構築し、「学習者主導」で「考える」授業を行い**、国際バカロレアの「10の学習者像」、学習指導要領が掲げる「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「主体的に学習に取り組む学習意欲」を育みます。

【国際バカロレア指導の方法】

探究を基盤とした指導

効果的なチームワークと協働を重視する指導

概念理解に重点を置いた指導

学習への障壁を取り除くデザイン

地域的な文脈とグローバルな文脈において展開される指導

評価を取り入れた指導

《参考 国際バカロレアの学び》

学校における学びには、通常の教科指導のほか、キャリア教育やふるさと教育など様々な要素があります。国際バカロレアは特別なこと、難しいことを「教える」のではなく、これら学校における様々な学びを、国際バカロレアのプログラムの基準でカリキュラムを構築して授業を行うことで、グローバル人材に必要な素養・能力（国際バカロレアが目指す10の学習者像に示す力）の育成を目指す国際基準のプログラムです。

また、国際バカロレアは地域とのつながりや伝統文化、奉仕活動を重要視しており、地域学習をカリキュラムに組み込むことでふるさとに対する誇りと愛着の心を養うことができます。

《学校における学びの要素》

- 学習指導要領に定める教科指導
- 至誠(まごころ)学
- キャリア教育
- ふるさと教育
- 体験学習
- 防災教育
- 奉仕活動

【国際バカロレア指導の方法】

国際バカロレアでは、**国際バカロレアのプログラムの基準に学習指導要領の内容を網羅したカリキュラムを構築**し、以下の6つの指導方法を踏まえて、教科の指導、総合的な学習の時間などの授業を展開します。

国際バカロレアのカリキュラム	探究を基盤とした指導	児童生徒自ら課題を見つけ、情報を収集・整理・分析しながら問題の解決に取組み、意見をまとめ・表現することを繰り返す学習活動
	概念理解に重点を置いた指導	特徴や変化などの概念を理解することにより、各教科の理解を深め、つながりを見出し、新しい文脈へと学びを転移させる
	地域的な文脈とグローバルな文脈において展開される指導	実際の文脈と例を用い、自分の経験や周りの世界と関連付けて新しい情報を処理する
	効果的なチームワークと協働を重視する指導	児童生徒間、教師も交えた協働的な学びにより、多様な考え方を身に付ける
	学習の障壁を取り除くデザイン	全ての児童生徒が自身の個人目標を設定し、それを追求するための学習機会を創出
	評価を取り入れた指導	評価を学習成果の測定だけでなく、評価結果をフィードバックし、さらなる成長を促す

【児童生徒に身に付けさせる学びのスキル】

- コミュニケーション力
- リサーチ力
- 思考力
- 社会性
- 自己管理力

国際バカロレアでは、児童生徒がよりよい学びを目指すために必要なツールとして、これら5つのスキルを身に付けるよう指導に組み込みます。これらスキルは将来に渡っても役立つものとなります。

《国際バカロレアが目指す10の学習者像》 (グローバル人材が持つ素養・能力)

- 探究する人
~Inquirers~
- 知識のある人
~Knowledgeable~
- 考える人
~Thinkers~
- コミュニケーションができる人
~Communicators~
- 信念を持つ人
~Principled~
- 心を開く人
~Open-Minded~
- 思いやりのある人
~Caring~
- 挑戦する人
~Risk-Takers~
- バランスのとれた人
~Balanced~
- 振り返りができる人
~Reflective~



ふるさとに誇りと愛着の心を持つ人

3 国際バカロレアの概要

(4) 国際バカロレアの教育プログラム

① **プライマリー・イヤーズ・プログラム (PYP)**

- ・主に幼稚園・小学校（3～12歳）が対象
- ・精神と身体の両方を発達させることを重視したプログラム
- ・特定のカリキュラムはなく、国際バカロレアが示すカリキュラムの枠組みに合わせて、学校がそれぞれ独自にカリキュラムを構築する
- ・導入園・校の一部の学年やクラスでの実施ではなく、園・校全体で取り組む
- ・日本語で実施可能

② **ミドル・イヤーズ・プログラム (MYP)**

- ・主に中学校（11～16歳）が対象
- ・これまでの学習と社会のつながりを学ばせるプログラム
- ・国際バカロレアが示すカリキュラムの枠組みに合わせ、学習指導要領に基づく教科指導の中で取り組むもの
- ・導入校の一部の学年やクラスでの実施ではなく、学校全体で取り組む
- ・日本語で実施可能

③ **ディプロマ・プログラム (DP)**

- ・主に高校（16～19歳）を対象
- ・知識豊かで探究心に富み、思いやりと共感する心をもつ人間を育成するプログラム
- ・2年間で6つの基本科目と3つのコア科目を学ぶ
- ・導入校の一部のクラス（コース）で実施することが可能。
- ・英語、スペイン語、フランス語のいずれかの言語を使うことが基本だが、日本では、6つの基本科目のうち、4科目は日本語で実施できるDL（デュアル・ランゲージ（以下「日本語DP」という。））が認められている
- ・最終試験があり、所定の成績を修めると、国際的に通用する大学入学資格が取得できる

※その他主に16～19歳を対象とし、キャリア教育・職業教育に関連したプログラムであるキャリア関連プログラム（CP）がある。（国内に認定校なし）

4 国際バカロレアの導入効果（研究結果から）

①『学校に行きたい』『友達と一緒に楽しく学びたい』と思える学校づくり

国際バカロレアでは、教科書の内容を「覚える」のではなく、教科書の内容を踏まえながら実際の文脈や生活を例に用いた様々な「問い」に対して、友達や教員とディスカッションしたり、自ら調べ、分析してまとめて発表するといった学習に取り組めます。国際バカロレアは児童生徒にとって楽しく学ぶことが出来るため、『学校に行きたい』『友達と一緒に楽しく学びたい』と思える学校づくりに効果が期待されます。

②南相馬市が目指すこどもの姿（育成する力）の実現に有効な手法

将来の社会の姿の予測が困難と言われる時代において、本市が目指すこどもの姿（育成する力）は、グローバル人材が持つ素養・能力として、こどもたちが将来どのような分野の職業に就く場合でも必要となります。

国際バカロレアは、教科横断的で対話的な探究型学習等を通じて、知識・技能の習得、コミュニケーション力、多面的なものの見方、概念的理解を促し、答えのない問いに対してどのように考え、選択していくか、それをどのように伝えるかといった思考力・判断力・表現力等を養う特色的なカリキュラムで、本市が目指すこどもの姿の実現に高い効果が期待されます。

③学習指導要領が掲げる『主体的・対話的で深い学び』の実践

現学習指導要領では、一人一人の児童生徒が、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となれることを目指し、「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえて教育活動を行うこととしており、この理念は国際バカロレアと共通しています。

国際バカロレアは、プログラムに学習指導要領の内容を関連付け、両方の内容を満たして取組むものであることから、学習指導要領が目指す教育を、国際基準で効果的に実施することができます。

なお、国際バカロレアの授業では、児童生徒同士によるディスカッションを活発に行うことから、課題に対する新たな視点が生まれるなど、学びが深まり、主体的に学習に取り組む態度が育成されます。

国際バカロレアは、『主体的・対話的で深い学び』を実現し、グローバル人材に必要な素養・能力を身に付けさせるための計画・指導・学習・評価が一体となった[世界基準のガイドライン](#)

4 国際バカロレアの導入効果（研究結果から）

④郷土を支える人材育成（ふるさと教育の推進）

グローバルの人材の育成には、自らのバックグラウンドである日本（ふるさと）の文化を深く理解し、日本人としてのアイデンティティを養うことが必要です。

国際バカロレアは、自らの国・地域に対する深い理解や奉仕活動を重視しています。地域の協力を得て報徳仕法を始めとするふるさと教育をカリキュラムに組込むことで、より深い学びにつなげることができ、ふるさとに誇りと愛着を持ち、郷土を支える人材の育成が図られます。

⑤教員の指導力向上

国際バカロレアでは、網羅主義で教師主導の「覚える」授業から学習者中心の「考える」授業を行います。そのため、国際バカロレア校の教員は、授業の中で児童生徒の様子に応じて情報提供など支援を行ったり、議論の活性化を促す役割を担います。

児童生徒同様に教員も探究者であることが必要となるため、各種研修への参加や探究型の授業実践により、学習指導方法の改善と教員の指導力向上が期待されます。

⑥好事例の波及

教員は、国際バカロレア校での指導経験を通して、探究的な学びの指導力が高まり、人事異動等により、市内外へ教育手法の好事例の波及が期待されます。

5 国際バカロレアの導入推進に係る国の取組

時 期	内 容
昭和54年4月	国際バカロレア資格を有するものは、大学入学資格があると認定
平成25年6月	国際バカロレア認定校を2018年（平成30年）までに200校へ大幅に増加させることを目指す（「日本再興戦略-JAPAN is BACK」）等の目標を設定し、無料ワークショップの開催等、国際バカロレアの普及・拡大を推進。（その後、目標年を令和4年度に延長）
	目標達成のため、国際バカロレア機構の協力の下、DP科目の一部を日本語でも実施可能とする日本語DP」の開発を進めるとともに、国際バカロレア日本アドバイザー委員会の提言（平成26年4月）に基づき、国際バカロレア導入拡大に向け、DP科目と高等学校学習指導要領の教科・科目等の対応関係の整理、DP認定校における教育課程の基準の特例を定めるなど、導入拡大に向けた取組を実施
平成29年5月	「国際バカロレアを中心としたグローバル人材育成を考える有識者会議」において、国際バカロレアの役割を再確認するとともに、日本語DPを始めとする取組の意義と課題を整理し、議論の結果を中間的にとりまとめ
平成30年5月	中間とりまとめを受け、平成30年5月に、日本国内における国際バカロレア教育の普及促進及びノウハウの横展開等を主導することを目的として、文部科学省IB教育推進コンソーシアムを設立。
令和4年4月	国際バカロレアの普及促進に係るこれまでの取組の成果や課題を整理し、今後重点的に実施すべき取組み等、国際バカロレアの普及促進の方策について検討を行う「国際バカロレアの普及促進に向けた検討に係る有識者会議」を実施
令和5年3月	「国際バカロレアの普及促進に向けた検討に係る有識者会議」とりまとめにおいて、国際バカロレア認定校の増加と実績の蓄積を基に、国際バカロレアの普及・調査研究・情報発信等の拡大を目指す、国際バカロレア認定校がない地域での導入を重点的に促進するなど、今後の推進方策等を整理
令和5年6月	第4期教育振興基本計画において、コンセプトとして「持続可能な社会の創り手の育成」及び「日本社会に根差した※ウェルビーイングの向上」を掲げ、さらに基本方針の一つとして「グローバル化する社会の持続的な発展に向けて学び続ける人材の育成」を目指すこととしており、次期学習指導要領においても、この基本方針を踏まえた改訂が見込まれている

6 国際バカロレアの導入状況

国際バカロレア認定校・園は令和6年3月時点で、世界160の国と地域に約5,800校あり、年々増加しています。

日本国内においても、当初は外国人向けのインターナショナルスクールが主でしたが、近年は私立学校、国公立学校の学校教育法第一条に掲げる学校（通常の日本の学校）や幼稚園の認定校が年々増加しています。

令和6年3月31日時点の認定校数・候補校数は以下のとおりです。

プログラム	認定校		候補校
		(うち国公立)	
PYP	63校	2校	46校
MYP	39校	7校	16校
DP	68校	13校	8校
合計	170校	22校	70校

※文部科学省IB教育推進コンソーシアムHPより
※校数はIB認定校をプログラム単位で数えた数

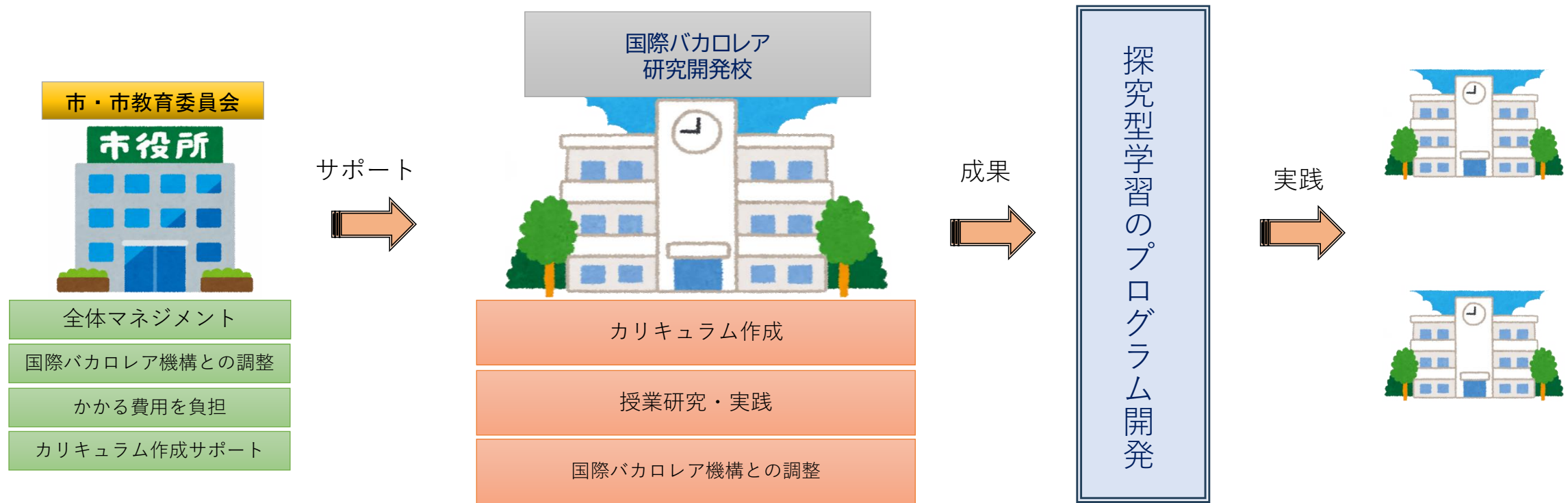
7 南相馬市における国際バカロレアの導入

(1) 導入の考え方

国際バカロレアは、国際バカロレア機構が示すカリキュラム（フレーム）に沿って、導入校が独自にカリキュラムを編成し、探究型の授業を行うプログラムです。国際バカロレアのプログラムの実践を行うなど、国際バカロレア機構が示す各種のプロセスを経ることで国際バカロレア機構の認定（IB World School）を受けることができます。

しかし、国際バカロレアの認定を受けるためには、申請費や年会費等の費用が必要になるとともに、導入校の教員には、研修やカリキュラムの作成・実践等に大きな負担が生じます。

そのため、国際バカロレアは、**市内小中学校の中からそれぞれ1校を探究型学習の研究開発校として指定**し、認定を目指して取り組みます。その後、研究開発校での成果と実践を参考に、**南相馬市独自の探究型学習プログラムを開発し、全小中学校で効果的な探究型学習の実践**を目指します。



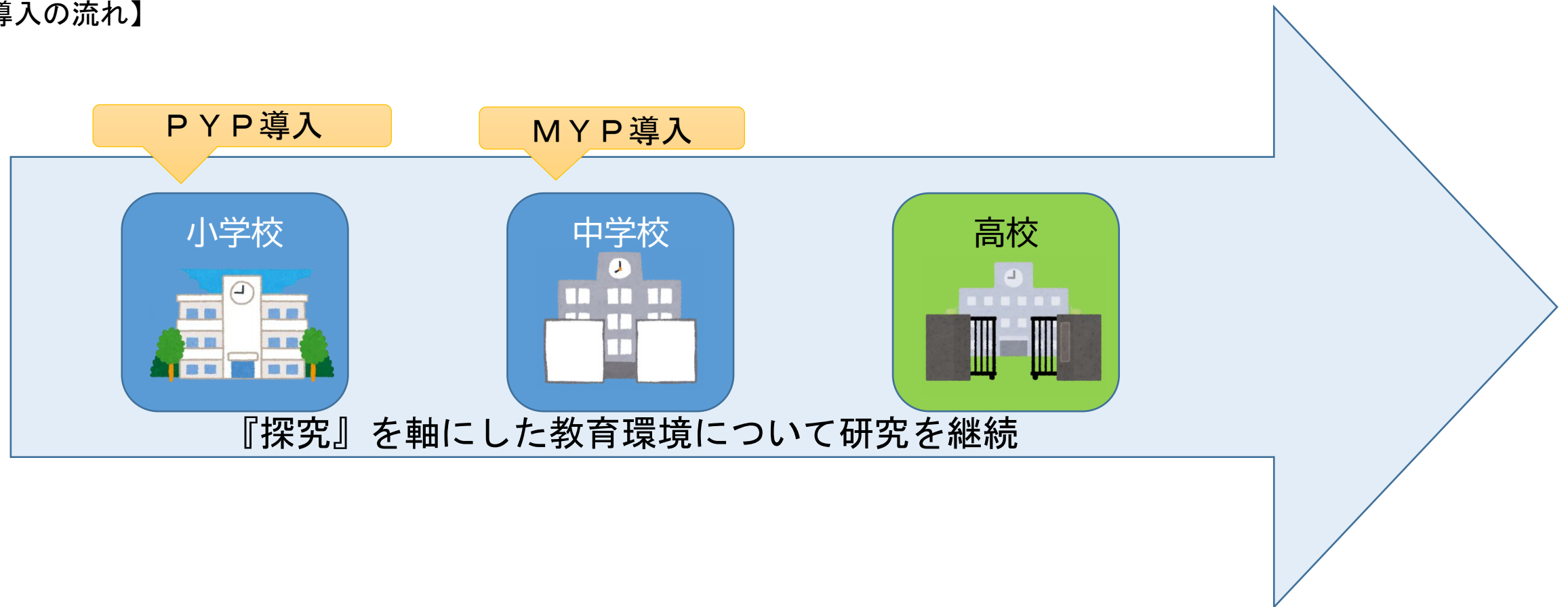
(2) 導入プログラム

国際バカロレアは、低学年から取り組むことで、発達段階に応じたスキルや主体的に学ぶ態度が高まります。そのため、まず、**市内小学校（研究開発校）においてPYPを導入**し、その後中学校におけるMYP導入について検討します。

MYPは、中高一貫教育、小中一貫教育、単独など様々なパターンがあることから、引き続き研究したうえで、MYPの導入指針を盛り込んだ本指針の最終版をまとめることとします。

なお、将来的な小学校から高校までの『探究』を軸とした教育環境の構築についても引き続き研究を進めてまいります。

【導入の流れ】



(3) PYP研究開発校指定の考え方

PYP研究開発校（小学校）は導入効果の最大化を図るため、以下に掲げる3つの視点と5つの考え方を踏まえて比較検討し、総合的に判断して指定することとします。

3つの視点

子ども(保護者)

国際バカロレアで学びたい子ども・学ばせたい保護者の希望を叶える

- 学ぶ機会の確保
- 学びの継続性確保

教育水準の向上

研究成果の全校へのフィードバック

- 探究型学習のプログラム開発
- 授業研究及び研究成果の公開

復興再生

- 東日本大震災からの復興再生への寄与
- 市の未来を担う人材の育成

指定の考え方

①児童数

本市の未来を担う人材の育成及び研究開発校として効果的な探究型学習プログラムを開発するためには、多様な授業の実践を通して、児童の「10の学習像」に示す素養・能力の育成効果を測る必要があります。そのため、研究開発校の指定は**児童数が多い学校**が望ましいと考えられます。

②学校の受入体制(教員体制)

探究型学習プログラムを開発し、市内全校で取り組むためには、国際バカロレアの指導方法を研究・実践しつつ、人事異動や公開授業を通して探究型学習の学びを拡大する必要があります。そのため、研究開発校の指定は**教員数が多く、安定した研究・実践が可能な教員体制がとれる学校**が望ましいと考えられます。

③小中の接続

国際バカロレアで学びたい子どもの学びの継続性を確保するとともに、小中の接続を踏まえた中学校における探究型学習プログラムの効果的な研究開発につなげるため、研究開発校は**小学校から中学校へ円滑に接続できる学校**が望ましいと考えられます。

④復興のシンボル(復興再生への寄与)

本市は震災の影響等により、生産年齢人口・年少人口が大幅に減少していることから、本市の未来を担う人材の育成や移住定住など、**復興に寄与するシンボルとなる学校**が望ましいと考えられます。

⑤通学のしやすさ

国際バカロレアの導入に当たり国際バカロレアで学びたい子ども、学ばせたい保護者の希望を叶えるとともに、移住定住の推進にもつなげるためには、区域外就学も視野に入れる必要があります。そのため研究開発校は**学区外からでも通学しやすい学校**が望ましいと考えられます。

(4) 研究開発校へのサポート等（導入に向けた課題解決方針）

①人材確保の取組

研究開発校には、国際バカロレアの理念等を理解し、取組む姿勢を持った校長、国際バカロレアのカリキュラムに係るマネジメントや国際バカロレア機構との調整、各種コーディネートを行うIBコーディネーターが必要です。

また、研究開発校ではカリキュラム作成や授業研究、ミーティング、研修の受講のほか、国際バカロレア機構との調整や事務的な作業が必要になることから、通常の教員だけでなく、支援教員や国際バカロレア機構との連絡調整を支援する英語話者、事務サポートなど多様な人材の確保が必要です。

そのため、**教員配置について県教育委員会と調整を図るとともに、市教育委員会において支援要員の雇用や事務的なサポート体制を構築する**など、研究開発校が円滑かつ効果的に取組みを進められるよう努めます。

②教員の負担軽減の取組

①で述べたように、研究開発校では国際バカロレアのカリキュラム作成や授業研究、ミーティング、研修等を行う必要があり、教員の負担の増加が懸念されます。

そのため、**市教育委員会が主体となりICT機器を積極的に活用した教育DXの推進**などにより、校務や教育活動に係る負担軽減を図ります。

③保護者や地域の理解醸成・協力

国際バカロレアを導入し、その教育効果を最大限発揮するためには、保護者や地域の方々の理解や協力が必要不可欠です。

市教育委員会では研究開発校と協力し、懇談会・説明会等を積極的に行い理解醸成に努めるほか、地域学校協働本部（生涯学習課所管）と連携し、**コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の導入も視野に、保護者・地域との連携体制の構築**を図ります。

④新たな教育空間の整備検討

国際バカロレアのカリキュラムでは、探究型学習としてグループでの意見・アイデアの発散、様々な調査活動・体験活動、資料等の作成、プレゼンテーションなど、これまでの教室での授業スタイルに捉われず、多様なスタイルで学びを深めていくこととなります。この国際バカロレアの多様なスタイルの学びに対応するとともに、子どもたちのより深い学びにつなげるため、**先進的な技術（ICT環境）を取り入れ、機動的でフレキシビリティに富んだ新たな教育空間の整備を検討**します。

7 南相馬市における国際バカロレアの導入

(5) 導入に向けたスケジュール (案)

小学校におけるPYPの導入に向けては、以下のスケジュール (案) を目標に取り組むこととします。中学校におけるMYPの導入スケジュールについては、引き続き行う研究活動の結果等を踏まえて、本指針の最終版において整理します。

	R5 2023	R6 2024	R7 2025	R8 2026	R9 2027	R10 2028
PYP	<ul style="list-style-type: none"> 導入に向けた研究活動 先進事例調査 	<ul style="list-style-type: none"> 導入に向けた研究活動 先進事例調査 研修受講 導入指針策定 	<ul style="list-style-type: none"> 研究開発校選定 候補校申請 候補校認定 研修受講 コンサル訪問 		<ul style="list-style-type: none"> 認定申請 確認訪問 認定 	

《PYP導入の流れ》

